

治療

乱視対応型の多焦点眼内レンズ 先進医療施設で質の高い白内障手術

白内障は進行したり重症化した場合、手術が困難だと診断されるケースも少なくない。

西坂紀実利院長は北海道大学病院や道内、道外の医療機関で臨床経験を積んでいることから、高い精度の手術を行うことが可能で、重症例の患者を多く救済してきた。西坂院長の治療を求め、道北や道東など全道各地から患者が訪れる。手術は負担が少なく短時間で終わり、日帰りで行うことができる。「長年治療ができなかったが、当院で手術し、とてもクリアに見えるようになった患者さんいます。諦めずに、一度来院していただければ」と西坂院長。

同院は厚生労働省より多焦点眼内レンズを用いた白内障手術の先進医療施設に認定されている。1



▲外観

カ所にしかピントが合わない従来の眼内レンズとは違い、多焦点眼内レンズは遠くと近くの両方にピントを合わせることもできるため老眼解消の切り札とも言われている。いままでも老眼で見えなかったものまで、遠くはもちろん、近くまで見えるようになる。加えて乱視も矯正できる。

西坂院長は「自由診療となりますが、厚生労働省が定める先進医療に当たります。加入している保険会社

で先進医療特約が付加されている場合には、その費用がまかなえることが多いです。それを知らなかったばかりに手術が終わってからご本人の強い希望があり、通常のレンズから多焦点眼内レンズに交換する手術をした方もいました。詳しくは保険会社に問い合わせると良いでしょう」と説明する。

また手術についても「安全で合併症が無いのももちろん、いかに負担が少なく、きれいに美しくということにこだわって手術をしています。視力の数字は同じかも知れませんが、そういったこだわりが視力の数字では表せない見え方の質を最大限に回復させると信じています。経験したことのない良い見え方を経験し、大変喜ばれる患者さんも少なくないので、患者さんによっては『視力の回復』よりも『視力向上』がふさわしいのかも知れません」(西坂院長)。

緑内障では、最新の検査機器OCTを導入し、早期発見に尽力。一般的な眼科疾患にも精通しており、思わぬ全身の病気が眼科受診



▲笑顔で親切丁寧なスタッフの対応も評判

で見つかることも少なくないという。加齢黄斑変性や黄斑浮腫には、抗VEGF薬(抗新生血管薬)を用いた硝子体内注射の治療をしており、眼への負担を最小限に抑え、大きな成果をあげている。スタッフは親切丁寧で、院内は明るい雰囲気。地下鉄宮の沢駅から徒歩5分とアクセスも良好だ。

眼科西坂医院
札幌市西区発寒6条13丁目1-6
(011)6667-2525



西坂 紀実利院長

(にしざか きみとし) 札幌医科大学医学部卒。札幌医科大学付属病院、苫小牧市立病院、室蘭市立病院、伊達赤十字病院眼科医長、眼科杉田病院(名古屋)、北大医学部眼科非常勤講師を経て、2012年5月に開院。日本眼科学会、日本眼科手術学会、日本白内障屈折矯正手術学会、日本角膜学会、日本角膜移植学会。